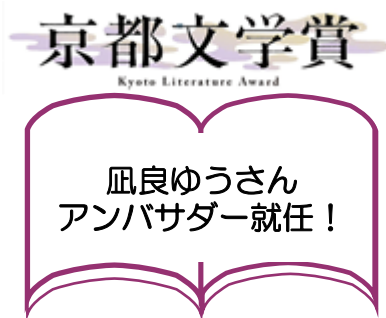


(広報資料)



令和3年7月2日  
京都市文化市民局  
京都文学賞実行委員会  
〔担当：文化芸術都市推進室文化芸術企画課〕  
〔電話：366-0033〕

## 新たなアンバサダー（応援大使）の就任及び 第2回中高生部門受賞作のデジタルブック掲載について

京都市では、文学の更なる振興や「文化都市・京都」の発信等に寄与するため、京都文学賞実行委員会を立ち上げ、「京都文学賞」を創設しており、令和3年度は、4月30日（金）から、第3回作品及び読者選考委員を募集しています。

本文学賞では、京都ゆかりの5名の作家の方々に「アンバサダー（応援大使）」に御就任いただき、SNS等を通じた情報発信など、本文学賞のPRに御協力いただいているところです。

この度、新たに、京都市在住の<sup>なぎら</sup>凧良ゆう氏（令和2年本屋大賞受賞）に「アンバサダー（応援大使）」に御就任いただくことになりましたので、お知らせします。

また、第2回中高生部門最優秀賞『鴨川の詩』（足立真奈氏）及び同部門優秀賞『カタストロフ』（大鹿日向氏）について、デジタルブックとして京都市情報館へ掲載しますので、併せてお知らせします。

### 記

#### 1 アンバサダー（応援大使）

##### <sup>なぎら</sup>凧良 ゆうさんのプロフィール及びコメント



撮影：内藤貞保

滋賀県生まれ。京都市在住。2006年にBL作品にてデビューし、代表作に「美しい彼」シリーズ（キャラ文庫）など作品多数。2017年非BL作品である『神さまのビオトープ』（講談社タイガ）を刊行し高い支持を得る。2019年に『流浪の月』（東京創元社）と『わたしの美しい庭』（ポプラ社）を刊行。2020年『流浪の月』で本屋大賞を受賞。2020年刊行の『滅びの前のシヤングリラ』（中央公論新社）で2年連続本屋大賞ノミネートとなる。

伝統を大切に守りながらも、視線は常に未来へと注がれている。  
京都という町が持つ重厚さとたおやかさ、その奥深い魅力を再発見させてくれる  
ような、はっと目の覚める眩しい物語を期待しています。

## 2 第2回中高生部門受賞作のデジタルブック掲載について

### (1) 掲載先について

京都市情報館 <https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000273202.html>



### (2) 掲載作品について

#### ○ 中高生部門 最優秀賞

『鴨川の詩』 作者 足立 真奈（あだち まな）氏

#### あらすじ

文学賞の受賞パーティーで、一人の作家が十年前のある日のことを思い返していた——夢に破れた青年。ミュージシャン志望の男。ある決心をした若者。その父親。ギターケースを持つ男。京都・鴨川で彼らの人生が交差するとき、奇跡の物語は動き出す。

<作者プロフィール> 京都府福知山市在住／中学3年生（受賞時）

#### ○ 中高生部門 優秀賞

『カタストロフ』 作者 大鹿 日向（おおしか ひゅうが）氏

#### あらすじ

将来の夢もなく、それでも勉強を強要される生活に疲れ切った少年ひなたは、余命宣告を受けた少女こかげと出会う——人生に絶望した少年と少女のひと夏の交流を描いた切ない恋愛劇。

<作者プロフィール> 京都市在住／高校3年生（受賞時）